

プログラム9 世界の人々の生活を知ろう（エコライフ）

目的

- ・ 写真集「地球家族」を使って、世界のいろいろな国の人々の暮らしを知る。
- ・ 私たちの暮らしを改めて見直すことで、これからの私たちの生活のあり方について考える。

概要

写真集「地球家族 世界30カ国のふつうの暮らし」は、世界30カ国の概ね中流の家族を、その家財道具一式とともにそれぞれ1枚の写真に収めている。この写真集の写真をみんなで見ることで、世界各国の人々の生活を考え、日本に住む私たちの生活をかえりみることで、本当に生活に必要なものは何なのか、私たちの生活が環境にどのような影響を与えているのかなどについて考える。

対象

小学生から大人まで（人数は10名程度以上）。

実施時期

いつでも実施可能

所要時間

2時間程度



「地球家族 世界30カ国のふつうの暮らし」
（単行本、TOTO出版）
TOTO出版HPより引用 <http://www.toto.co.jp/>

準備物

<写真をみる～あり方を考える>

- ・ 「地球家族 世界30カ国のふつうの暮らし」 フォトランゲージ版、マテリアルワールドプロジェクト（代表 ピーターメンツェル）著、ERIC 国際理解教育センター編。
写真集（単行本 TOTO 出版）は現在も購入可能ですが、写真を一枚ずつバラバラにした「地球家族 フォトランゲージ版」は、絶版となっています。フォトランゲージ版については、富山県国際交流センターライブラリー（問い合わせ先は（財）とやま国際センター（電話 076-444-2500））に蔵書としてあります。また、ERIC 国際理解教育センター（<http://www.eric-net.org/booklist.htm> 電話 03-5907-6095）でも貸し出ししています。写真集（単行本）は、富山県立図書館、富山市立図書館などに蔵書があります。
- ・ 付箋紙（ポストイットなど名刺半分程度の大きさのもの。100枚綴りをグループ数分）
- ・ 写真を見るときに使用する A4 裏紙（グループ数分）

- ・ フェルトペン（裏うつりしないものが望ましい。8色程度のセットをグループ数分）
- ・ 筆記用具（鉛筆など）
- ・ 模造紙（グループ数分）

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）

内容

<世界の写真を見る>

- ・ 参加者を5名程度のグループに分ける。この際、大人と子どもは同じグループに入ってもよいし、別々になるようにグループ分けしてもよい。子どもが極端に少ないグループができないように配慮する。
- ・ 各グループに、日本以外の先進国、中進国、途上国から各1枚の計3枚ずつの写真を配布する。付箋紙、裏紙も配布する。
- ・ 各グループの参加者は、写真を見て気づいたこと、疑問に思ったことなどを、付箋紙1枚に一つずつ鉛筆などで書き、該当する写真の周辺に貼り付ける。
- ・ それぞれのグループで、その写真がどこの国なのか想像して、国名とそう考えた理由を裏紙にフェルトペンで書く。
- ・ 全参加者が、一つ隣のグループに移動する（すべてのグループ参加者が別のグループの島の一つずつずれるように移動する）。
- ・ 新しい島に移動したら、そこにある写真やコメントを見て、さらに気づいたこと、思ったことなどを付箋紙に記入して、追加して貼り付ける。
- ・ 貼り付け終わったら、もとの島に戻り、新たに付け加えられた付箋紙を見る。

<日本の写真と比較する>

- ・ 各グループに、「地球家族」の日本の写真を配布する。参加者は、それを見て感じたことをグループで話し合う。
- ・ 身の回りにある「もの」は、すべていずれはごみになること、日本や他の先進国の写真に写っている「もの」の中にはプラスチックなど自然にかえりにくいものがあることなどを、参加者に伝える。感想を話し合っている際にそのような意見が出ている場合は、それを紹介する形で伝えるのがよい。

<これからの生活のあり方を考える>

- ・ 各グループに、模造紙1枚を配布する。参加者は、各グループで、ここまでの活動の感想を模造紙に書いてまとめる。
- ・ 模造紙をみんなに見せながら、各グループから順に感想を発表する。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどをみんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 蔵書を図書館等から借りた場合は、取り扱う際には汚したり破損したりしないように注意する。
- ・ 実施時間が長い場合には適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるものよい。

展開や応用

- ・ ごみ処理施設などを見学することで、写真に写っているものがどのように処理されているのかなど、ごみの問題について理解を深める。
- ・ 同じ写真を用いて、「豊かさとは何か」をテーマに考えてもよい。

プログラム提供団体

団体名・担当者名 とやま国際理解教育研究会 定村 誠

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-095

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ http://www.geocities.jp/tie_toyama/

団体の概要 とやま国際理解教育研究会（TIE）は、「地球規模で考え、地域で行動しよう（Think globally, act locally）」を实践する市民団体です。1996年発足以来、公正で持続可能な、地球社会・地域社会づくりをめざす仲間が集い、活動しています。ワークショップ（参加体験型学習）の進行役であるファシリテーターを育成し、地域の中で「参加型の学び」を発展させていくことを目的としています。